

語り部の役割考える

南三陸で被災地シンポ

きょうまで



語り部の役割を考えた全国シンポジウム

災害の被災地で活動する語り部の役割を考える「全国被災地語り部シンポジウム」が24日、南三陸市で開かれた。

「野島断層」を保存する兵庫県淡路市の北淡震災記念公園総支配人の米山正幸さんは「一人の体験だけで震災の全てを語れない」とし、教訓の発信には、語り部同士の情報共有が重要と述べた。

岩手県釜石市の旅館「宝来館」おかみの岩崎昭子さんは、相撲甚句で被災を語る仲間の活動を紹介。語り部と

「語り部の未来」をテーマにしたパネルディスカッションで

して最も重要なことは「もつ誰一人亡くしたくない」という思いを伝えること」と話した。気仙沼市震災・復興企画部長の小野寺憲一さんは、語り部が伝承を続けることで「自分たちが津波や備えを忘れないことにつながる」と説明。市内の中学生が語り部活動をしている様子を伝えた。

震災をテーマにしたドキュメンタリー映画の監督・尹美亜さんは「もつ誰一人亡くしたくない」という思いを伝えること」と話した。気仙沼市震災・復興企画部長の小野寺憲一さんは、語り部が伝承を続けることで「自分たちが津波や備えを忘れないことにつながる」と説明。市内の中学生が語り部活動をしている様子を伝えた。

元国交省事務次官で政策研究大学院大学客員教授の徳山日出男さんが「教訓が命を救う」「語り部」のもつ尊い使命」と題して基調

講演。分科会では語り部の役割や震災遺構との向き合い方などをテーマに考えた。シンポジウムは、南三陸町地域観光復興協議会などによる実行委が主催。2016年に同町で1回目が開かれ、今年で5回目。兵庫県淡路市、熊本市でも開催しており、同町では2年ぶり3度目。25日は語り部の事例発表などが行われる。

「何十年ぶり」の人も

駅前ふれあい会

気仙沼弁かるた楽しむ

気仙沼駅前ふれあい会による「方言教室と方言カルタ」が24日、気仙沼駅前プラザで開かれ、気仙沼弁の魅力に触れながら交流を深めた。

ふれあい会は、駅前通り商和会と災害公営住宅内の駅前住宅自治会、合同会社「mov ai」の3団体で昨年設立。駅前周辺の交流を活発にしながら地域にぎわいをと活動している。

今回は「方言」がテーマで、約20人が参加。方言教室で気仙沼

が教える場あり、和気あいあ

きめ細かな支援を

記録伸びて自信に

気仙沼スポーツ少体力テスト判定会

気仙沼市スポーツ少年団本部による「体力テスト判定会」が23日、市総合体育館「ケー・ウエーブ」で開かれ

年1度の判定会

で、今年「立ち幅跳び」「上体起し」「腕立て伏せ」「時間往復

回数測定。子供たちは、苦しそうな表情を浮かべながらも、記録を伸ばそうと懸命に取り組んでいた。

この日は、「親子ふ

絞って走り続けていた。

鹿折少年ラグビースクールの岩本至恩君(気仙沼小5年)は「前回よりも全体的に記録が伸びたので、自信になった。来年も頑張りたい」と話した。



立て伏せをする子供たち

